

社会資本総合整備計画 事後評価書（都市再生整備計画 事後評価書）

平成29年3月27日

計画の名称	1 金沢八景駅周辺地区（第2期）都市再生整備計画		
計画の期間	平成26年度 ～ 平成28年度（3年間）	交付対象	横浜市
計画の目標	金沢八景駅東口地区土地区画整理事業や、金沢シーサイドラインの京急金沢八景駅への延伸事業にあわせて、駅を中心とした歩行者ネットワークの改善を進めるとともに、駅周辺の自然資源や歴史資産を活かしたまちづくりを推進します。		

計画の成果目標（定量的指標）	①駅周辺における歩行者ネットワークの安全性・快適性の向上及びバリアフリー化の推進 ②地区内に広がる自然資源の保全及び有効活用 ③地区内の歴史資産の保存及び有効活用		
----------------	---	--	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考				
	当初現況値 (H25当初)	中間目標値	最終目標値 (H30末)					
① 駅周辺道路のバリアフリー化 (評価点数) = (現状の点数) / (条例等に基づく理想点数)	57.7		94.1					
② 施設整備による市民満足度 (評価点数) = (測定年において最寄駅周辺の整備状況に満足した市民の割合) / (平成25年における最寄駅周辺の整備状況に満足した市民の割合)	1.0		1.2					
③ 樹林地の保全面積 緑地保全制度等による保全面積（ヘクタール）	293.7		341.0					
④ 歴史的資産の有効活用 旧円通寺客殿を中心とした施設利用者（人）	0		1000					
全体事業費	合計 (A+B+C)	1,863百万円	A	1,863百万円	B	C	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事後評価：平成30年度末時点	
評価の透明性、客観性、公正さを確保するため、学識経験者を入れた評価を実施する予定	公表の方法
	横浜市ホームページ

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業															
A 1 金沢八景駅周辺地区（第2期）都市再生整備計画															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考	
									H26	H27	H28				
A1-1	道路	一般	横浜市	直接	横浜市	駅西側道路（仮称）	約150m	横浜市					73		
A1-2	公園	一般	横浜市	直接	横浜市	金沢八景駅西公園（仮称）	約5,600㎡	横浜市					547		
A1-3	地域生活基盤施設	一般	横浜市	直接	横浜市	大丸山緑地整備事業	約72ha	横浜市					260		
A1-4	地域生活基盤施設	一般	横浜市	直接	横浜市	峯緑地整備事業	約12ha	横浜市					16		
A1-5	地域生活基盤施設	一般	横浜市	直接	横浜市	駅東西自由通路整備事業	—	横浜市					967		
合計												1,863			
B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考
合計															
C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考
合計															

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況						
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		道路整備事業、公園整備事業及び駅東西自由通路整備事業については、現在整備中（平成30年度完成予定）であるため、平成28年度末時点において効果発現はない。 緑地整備事業の進捗により、市街地における緑地の保全が進み、良好な市街地形成が図られている				
II 定量的指標の達成状況	指標①（駅周辺 道路のバリアフ リー化）	最終目標値	94.1	目標値と実績値 に差が出た要因		
		最終実績値	—			
	指標②（施設整 備による市民満 足度）	最終目標値	1.2	目標値と実績値 に差が出た要因		
		最終実績値	—			
	指標③（樹林地 の保全面積）	最終目標値	341 ha	目標値と実績値 に差が出た要因		緑地保全制度等により指定された樹林地の面積が想定以上だったため
		最終実績値	349 ha			
	指標④（歴史的 資産の有効活 用）	最終目標値	1000 人	目標値と実績値 に差が出た要因		
		最終実績値	—			
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)						
3. 学識経験者の意見						
指標①②④については、事業期間延長による未了ということですので、市民の期待も大きいことから着実な事業推進を期待します。 指標③については、緑地事業の効果があったものと思われます。						
4. 特記事項（今後の方針等）						
指標①②については指標に係る事業（駅東西自由通路整備事業及び駅西側道路整備事業）を金沢八景駅周辺地区（第3期）都市再生整備計画で引き続き実施するため当計画完了後に評価を行う。 指標④については、指標に係る事業（公園整備事業）完了後に個別に評価を行う。						